

施策評価表

1次評価日（課長等）	26年 9月 30日
2次評価日（部長等）	26年 10月 1日

1 施策の概要

施策名	多文化共生の推進	コード	12-1
この施策の主な内容（細施策）	①国際交流の推進、②国際理解の醸成		
第4次総合計画におけるこの施策の目的	市民の国際理解の醸成と多文化共生の社会づくりを推進する		
担当部課	部 企画政策部	課等 企画課	作成者 山岸 徹

●施策の実施内容（D0）

2 施策指標の達成状況

*第4次総合計画における目標指標の達成状況（最終年度：25年度）

施策指標名	単位	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度	
		実績値	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値
① 語学講座、日本語講座の受講者数	人	150	180	860	219	25.5%	185	188
指標説明	(財)岡谷市国際交流協会が実施する語学講座、日本語講座の延べ受講者数。語学力が身につくことでより円滑な交流ができ、国際理解が深まる。目標値は過去3年間の平均値を見込む。なお、21年度より語学講座の開催を見直した。(25年度は前期基本計画による)							
② 国際交流ボランティア登録者数	人	129	133	82	111	135.4%	135	137
指標説明	国際交流活動に関するボランティア登録者数の実人員。登録者数が増加すると、行政施策が円滑に実施でき、民間レベルでの交流も進み、国際理解が深まる。目標値は年2人の増加をめざす。							
③						#DIV/0!		
指標説明								

3 施策全体にかかる合計コストの推移

*項目6より「直接事業費」「人件費」の合計を自動表示

単位：千円

	23年度	24年度	25年度	26年度（予算）
直接事業費	5,692	5,448	13,349	15,661
人件費	1,120	800	800	800
合計コスト	6,812	6,248	14,149	16,461

●施策の評価（CHECK）

4 施策の現状評価

*25年度に施策の目的がどこまで達成できたか、施策の進行状況に関する順調／不調の判断

日本語講座や生活応援講座など、在住外国人の支援をするとともに、国際交流員による保育園・小中学校や市民との交流により、国際理解・多文化共生の醸成に努めた。

*岡谷市の現状のうち、この施策にとって強み／弱みとなる要因

岡谷市の強み	平成4年には（財）岡谷市国際交流協会が設立され、早くから国際理解への取り組みが進められてきている。
岡谷市の弱み	特になし

5 今後の外部環境の変化

*27年度以降に予測される社会・経済などの環境変化のうち、この施策に具体的に影響する要因

有利に働くもの	特になし
不利に働くもの	特になし

●改善の内容 (ACTION) / 次年度の計画 (PLAN)

6 平成27年度 施策を構成する事務事業の方向性

●基本的な考え方

* 優先して実施する分野=優先度がA・Bの事業：拡大する事業や新規事業の内容、優先的に実施する理由
 * 見直しを行う分野 =優先度がC・Dの事業：見直しの内容、見直しや廃止をする理由

優先して実施する分野	在住外国人の人数は減少傾向にあるが、ともに住みやすいまちづくりを進める必要があることから、引き続き補助金を交付するとともに、国際交流員を配置し、市民の国際理解の醸成を図る。
見直しを行う分野	特になし。

●27年度の優先度

* 事務事業の方向性が「継続」の事業についてA~Cにランク付け
 A：拡大、B：現状維持、C：見直し、-：廃止・完了・統合

直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	成果指標		直接事業費	人件費	妥当性	方向性	優先度	
					指標名	単位	23年度	24年度				25年度
1		一般	なし	国際化対策事業	国際理解のための指導、教育事業参加者数	人	718 975 1,141 1,190	5,692 5,448 13,349 15,661	1,120 800 800 800	高い	継続して実施	B：現状維持
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												